



神がかり的な指揮に、 特別な空気を感じた演奏だった…

大垣アルト 山田秀子

1月の演奏会が終わってしばらくの間は、いつものことなのだが、やり遂げた達成感で、虚無感のようなものにおそわれる。それとともに、今回の第九の演奏では、ステージ上の自分が、目の前の平光先生の指揮で演奏するオーケストラの音色に包まれて、まるで別世界に行ってしまうような不思議な空間にいたような感覚だけをまだはっきり覚えている。指揮者は、オーケストラでただ一人音を出さない存在でありながら音楽を創る立場であるから、合唱団の普段の練習では、平光先生の曲に対しての解釈でご指導いただく。でもなかなか言われるとおりに歌えず、前日練習になっても、いつもと同じところを注意される。そんなモヤモヤとした気持ちで本番を迎えた。第九の第1楽章から第3楽章までの演奏を聴きながら、なにか特別な空気を感じた。目の前には、いつもは合唱団の指導と指揮をされている平光先生が、オーケストラを指揮し、音楽を創っておられる。そのオーケストラの演奏と一緒に合唱する唯一の喜びは、様々な楽器から奏でる音の壮大な宇宙の中で歌えるという

ことだと思う。第4楽章に入り、ハプニングが起こった。その瞬間、私自身も体が硬直した。しかし、すぐに何事もなかったように自然にチェロの音色が滑らかに奏でられてきたのだ。そのような事のあとの、全体にもたらず緊張や精神の高揚というものは、とてつもない盛り上がりを見せるものだった。最後には、ほとんど神がかり的に曲を閉じた。こんな感動ははじめてであった。以前に読んだ音楽の解説の本に書いてあったのだが、「一番大切で、最初に決めるのは、聴いて自分がどう思ったということ。良いと思ったか悪いと思ったか、好きか嫌いか、だけど肝心なのはそれからで、なぜそう思ったのか、その理由をできるだけきちんと伝えるように」と。きちんとは伝えるようには、なかなか難しいが、その時、その瞬間に感じたままを書いてみたり、他の人が感じたことを聞いたり、お互いに話したりするというのも、音楽の一つの楽しみ方ではないだろうかと思っている。

山岳遭難事故に思うこと！ 岐阜 バス 吉田千秋

北アルプスで山岳遭難事故が頻発！

昭和34年秋、長野県の北アルプスでは山岳遭難事故が頻発しました。長野県警察本部は、遭難者の遺族たちの手記を集めた「山に祈る」という小冊子を発行して山岳遭難事故防止を訴えました。

その時、ダーク・ダックスが、この小冊子に目を付け、巻頭に載った 故飯塚揚一君と母親の手記によって「合唱組曲」をつくる企画を立て、作詞・作曲を清水脩さんに依頼しました。

清水脩さんは、「遭難者が書き残した最後の手記と我が子を亡くした母親の朗読と歌で進めた。」「主人公の元気な姿から死に至る筋に合わせて、明るい曲調から次第に暗い曲調へと移ってゆくようにした。『雪山登山』とその遭難について、できるだけ嘘のないものを書きたい。私自身の山への思慕も盛った。この曲が頻発する山の遭難防止に少しでも役立てば、作者として望外の喜びである。」と語っています。



48年も前のこと、同僚を山で失った！

私は、岐阜県警のOBです。退職して丁度20年になります。若いころ、北アルプスの麓にある警察署で勤務しました。忘れもしません、昭和52年5月、当時一緒に仕事していた飛騨方面山岳警備隊員N君が、北穂高岳の滝谷で遭難救助活動中に滑落して死亡したのです。「殉職・二重遭難」です。

標高3,106m、山岳遭難事故の最も多い「魔の滝谷」と言われるところです。“48年も前のこと、同僚を失ったこと”を未だに鮮明に憶えています。山岳遭難の話になると、この悲しい出来事がどうしても忘れられません。

その後私は、県警本部の「生活安全部」という部署で“山岳遭難事故防止・山岳救助活動”の業務に携わったことがあります。県内には、北アルプスの槍ヶ岳・奥穂高岳・焼岳・笠ヶ岳、標高3,000m級の山々が連なっています。奥穂高岳・西穂高・焼岳・笠ヶ岳などに登りました。“なぜ山を憶うのか、なぜ山を慕うのか” 穂高連峰の山々は、実に”壮大で神秘的だから”です。

県内は、北アルプスのほか、西の白山、東の恵那山など山に囲まれています。地元警察署の若手警察官で“山岳警備隊”が編成され、総勢で120名ほどです。

前述のとおり彼らは、救助活動に“命を懸け、体を張って”頑張っています。私は、山男ではありませんが、職務上、山岳遭難事故の現状を総括・取り纏めをする立場にあり、救助活動の現場や遭難者遺族との悲しいご対面など多くの体験させていただきました。今、そんな思い出が甦ってきます。

振り返ってみると、私は、山と関わること、地元の山男・民間の山岳救助隊の方々と交ることが沢山ありました。今回の演奏会「山に祈る」には、格別の思いがあります。

過去5年間の山岳遭難事故発生状況（岐阜県）

	発生 件数	遭難 者数	死 亡	行方 不明	負傷 者	無事 救出
令和 6年	94	104	9	4	51	40
5年	133	143	18	4	66	61
4年	129	141	14	0	66	61
3年	93	107	10	2	46	49
2年	68	73	7	0	29	37

65年前に

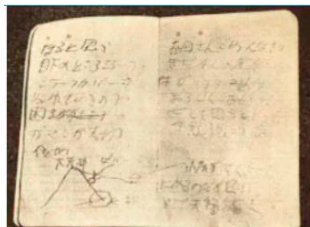
合唱組曲「山に祈る」が生まれた！

このドラマの主人公、上智大学山岳部の 故 飯塚揚一君（ナレーションでは、「誠」、大学4年生・卒業の直前）は、昭和33年3月17日、先に登った同大学山岳部パーティーを追って、同僚の岡部君（ナレーションでは「ヌーボー倉田」と二人で北アルプス燕岳の「燕山荘」に向かいました。

その後、岡部君は体調を崩したため、“猛吹雪”の中、人で前進キャンプのある大天井岳の牛首コル（牛首展望台）に向かいました。途中、山中でピバークする（「野宿」する、雪山を掘ってシュラフ「寝袋」に入って一夜を明かす）こととなりました。悲しいことに「凍死」し、2か月後の5月1日、大天井岳の雪が残る山中で、遺体で発見されました。

これが、おおまかな”あらすじ” “で、すべて実話であります。

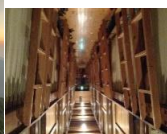
次の写真は、故 飯塚揚一君が持っていた手帳です。
 “お前の体臭が染み込み、アルプスの雪で濡れてポロポロになった手帳、右肩上がりの乱暴な字・・・ナレーションに出てくる言葉です。



以下は、“襲いかかる死への恐怖”の中で、持っていた「山日記」へ書き残された尊い手記です。

「お母さん ごめんなさい」 故 飯塚揚一
 3月17日

早く皆に会いたかった。岡部を「燕山荘」に残して「大天井」まで来る。吹雪でトレース分からず、時間は4時なのでピバーク地探す。今日は、ピバークか。



燕山荘

3月18日

午前7時15分。依然として吹雪収まらず。昨日の5時より14時間と25分たった。昨夜は6時間くらい眠ったが、場所が良くないので寝苦しかった。今日の明け方より腹の方が体温で濡れてきた。今朝、パンピタン5個を飲む、食欲はない。乾パン10枚あるから節約して食うつもり。ハムはシラーフの下なので出せない。



春の吹雪だから長くは続かないと思うが、今晚もここにいれば明日はよくなると思う。目下のところ、シラーフもシラーフカバーも濡れているので困るが我慢が大切。小屋が近くにあるのだが、疲れているので天候待ち。

お母さんごめんなさい。 まだ4人の弟、姉、妹がいます。皆によろしく。**お母さんのことを思うとどうしても帰りたい。**

13時15分。依然、吹雪激しく視界きかず。時々顔を出して見るが出発は出来ない。下半身が完全に濡れて苦しい。“何故1人で無理をしたのか 今さら悔やまれる。山の天候のカンも悪かった。山で自惚れず自重すること。

(原文のまま)

歌唱・ナレーションに出てくる「登山用語」

歌 唱

- 「ガレ場なら」～ 石や岩などが積み重なり、足元が不安定で歩きにくい山道のこと
- 「襲う白魔」～ 恐ろしく被害をもたらす大雪を魔物に例えて表したことは
- 「登る急坂も」～ 傾斜が急な登山
- 「凍る夜気」～ 凍りつくような夜の冷たい気配
- 「引き裂き 唸なり」～ 「ドドド」「グググ」と鈍く低い音、吹きすさぶ風の音
- 「悪魔の雄叫び」～ 悪魔が勇ましく叫ぶこと
- 「巨人の咆哮」(ほうこう)～ 猛獣が咲き猛る(たける)こと
- 「悪魔の勝鬨」(かちどき)～ 勝負ごとで勝ちを収めたときに士気を鼓舞すること
- 「巨人の怒号」～ 風や雪が荒れ吹いて激しい音を立てること

ナレーション

「中房出発、11時半 燕山荘に着く」

標高1,462m、北アルプス「燕岳」の中腹にある温泉、燕山荘(えんざんそう)～「燕岳」の頂上稜線にある歴史ある山小屋

「牛首までは慣れたルート」

大天井岳の「牛首展望台」

「大天井まで来る・・・吹雪でトレース分からず」

飛騨山脈にある標高2,922mの山、長野県の大町市・安曇野市・松本市にまたがる常念山脈の最高峰、トレース～踏み跡、足跡のこと

「ピバーク地探す・・・今日はピバークか」

野宿、野営すること、雪山で、洞穴か、ピッケルで洞を掘り一時しのぎする

「ハムは、シラーフの下なので出せない・・・」

「シュラフ」ともいう、寝袋のこと



合唱団ニュース4月号では、長野県警発行の小冊子「山に祈る」を元にして、故 飯塚揚一君の母親「飯塚恵子」さんの手記を掲載します。

3月～5月 練習予定

準備が先 声は後

練習時間開始 15分前までに集まりましょう

岐阜会場 長森コミュニティーセンター	大垣会場 大垣市南地区センター		各務原会場 ウィーン岐阜ホール(ときめき)
木曜日 (18:30~20:30)	水曜日 (10:00~12:00)	金曜日 (18:30~20:30)	日曜日 (14:30~16:30) ●第1日曜日のみ (10:00~12:00)
2月27日	2月26日	2月28日	3月2日 ●10:00~12:00
3月6日	3月5日	3月7日	3月9日
3月13日	3月12日	3月14日	3月16日
3月20日	3月19日	3月21日	3月23日
3月27日	3月26日	3月28日	3月30日
4月3日	4月2日	4月4日	4月6日 ●10:00~12:00
4月10日	4月9日	4月11日	4月13日
4月17日	4月16日	4月18日	4月20日
4月24日 岐阜市北部コミセン (岐阜市八代1-11-3)	4月23日	4月25日	4月27日
5月1日 休み	4月30日 休み	5月2日 休み	5月4日 休み
5月8日	5月7日	5月9日	5月11日
5月15日	5月14日	5月16日	5月18日
5月22日	5月21日	5月23日	5月25日
5月29日	5月28日	5月30日	

●4/24(木)の練習会場は岐阜市北部コミセンとなりますので、ご注意ください。

広報委員より

皆さまの原稿をお待ちしております お問い合わせは広報委員 まで

広報委員 高橋 なお子

e-mail:wien.chorus2021@gmail.com

携帯:090-9933-0374、fax:058-294-6114

白木 政春

e-mail:printshiraki@yahoo.co.jp

携帯:090-9924-6137、fax:058-231-4721

戸本 富美子

e-mail:fmeeeeen66@yahoo.co.jp

携帯:090-2929-0251